
課題名：変形性膝関節症例および人工膝関節全置換術例における歩行予備能について

◆研究の目的と概要◆

変形性膝関節症および人工膝関節全置換術について、今後のよりよいリハビリテーションを行うことを目的としています。通常の状態で発揮される機能と、通常以上の機能が必要な場合に発揮される最大機能の差である予備能に着目し、日常生活において主要な歩行機能についての調査をします。

◆対象となる患者さん◆

2013年9月から、2017年9月までの間に、変形性膝関節症にて人工膝関節全置換術を施行された方

◆研究に使用される情報◆

調査項目：性別、年齢、BMI、障害側、運動歴の有無、Kellgren-Lawrence分類^{※1}、術後在院日数

測定項目：疼痛、両側膝屈曲・伸展可動域、両側膝屈曲・伸展筋力、術後端座位・起立・歩行開始日数、Timed Up and Go test^{※2}、5m歩行速度
(術前および術後の測定結果を使用)

ADL評価^{※3}：Functional Independence Measure (FIM)
日本語版 Frenchay Activities Index
変形性膝関節症患者機能評価尺度

※1…膝の変形の度合いを評価する指標です

※2…椅子から立ち上がり3m歩いて帰ってくる時間を測定する検査です

※3…日常生活の状態を主観的なアンケートにて回答する検査です(術前・術後に実施)

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録(カルテ)からの情報を利用します。

* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。

* 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、

以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

リハビリテーション部 研究責任者 山本 遼

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明